

News Release



令和4年11月2日

各報道機関文教担当記者 殿

社会の最前線で活躍する大人たちに小学生が提案 「麴のよさを多くの人に知ってもらおうプロジェクト」

このたび、金沢大学附属小学校4年児童、株式会社四十万谷本舗が【KU5 Project HES0】の一環として、以下の企画を実施します。なお、この企画は未来のまち創造館のオープンキャンパス「のまち TRIAL」のイベントでもあり、一般に公開します。

10月より、金沢大学附属小学校4年児童、株式会社四十万谷本舗が協力し、麴のよさをより多く知ってもらうための新たな取り組みについて考えるプロジェクトが発足しています。

当日は、子どもたちが麴について調べたことを校外の審査員に対しプレゼンを行い、その後、意見交換を行います。プレゼンの中で、審査員が推薦したものについては協働で実践していきます。

「麴のよさを多くの人に知ってもらおうプロジェクト」

- 実施日：11月4日（金）10：00～11：30
※9：50から概要と撮影に際する注意等を説明します。
- 実施場所：金沢未来のまち創造館（金沢市野町3-11-1）
- 実施内容：小学生が考えた麴文化をもりあげる方法の提案（8チーム）
各チームへのフィードバック
質疑応答
- 参加者：附属学校小学生34名、教職員1名、
四十万谷本舗専務取締役 四十万谷 正和氏、
TENJO KANAZAWA 三宅 大介氏、
石川県工業試験場専門研究員 辻 篤史氏、
菊川町公民館主事 原 恵子氏

つきましては、当日の取材・報道をお願いいたします。

取材の際は、11月4日（金）9：00までに、別紙取材申込書の FAX をお願いします。

【お問い合わせ先】

金沢大学人間社会系事務部総務課附属学校事務係 （担当：寺田）
金沢市平和町1-1-15

TEL 076-226-2182 FAX 076-245-8630
e-mail: edfuzo1@adm.kanazawa-u.ac.jp （9：00～17：00）

取材を希望する場合は、本申込書を
11月4日（金）9：00までに下記の宛先へ送付してください。

金沢大学
人間社会系事務部総務課附属学校事務係
FAX：076-245-8630

申込日：令和4年11月 日

「麴のよさを多くの人に知ってもらおうプロジェクト」 取材申込書

報道機関名： _____

取材記者名： _____ 様

連絡先： _____ (_____)

同行者（カメラマン等）： _____ 名（上記記者除く）

カメラ等の内訳（台数）： _____

（例）テレビカメラ 1台

日 時：令和4年11月4日（金）10：00～11：30

実施場所：金沢未来のまち創造館

（金沢市野町3丁目11-1）

※9：50から概要と撮影に際する注意等を説明します。

※新型コロナウイルス感染症対策のため、来館の際は、検温の上、マスクの着用（鼻と口の両方を確実に覆うこと）および手指消毒の励行等に協力ください。

また、取材記者・同行者数も最小人数でお願いします。

担当：金沢大学人間社会系事務部総務課附属学校事務係 寺田
TEL：076-226-2182 FAX：076-245-8630
MAIL：edfuzo1@adm.kanazawa-u.ac.jp

(目指すべき理想の姿)

VISION

KU5

学校を拠点に、 新たな価値を創造する

KU5（金沢大学附属5校園）が、地域社会と協働でプロジェクトに取り組みます。プロジェクト誕生の背景には、グローバル化やAIの普及によって今後も不確実性が高まる時代の流れがあります。子どもたちが、予測困難な未来をよりよく生き抜くためには、自ら課題を見つけ、学び、考える力 — さらにAIに頼ることなく自らの判断で行動し、道を切り拓いていく力が必要です。そういった力を、子どもたちの中心（HESO）に育むことを教育機関の使命ととらえ、コラボレーション推進室が学校と地域社会の架け橋となって探究学習＝プロジェクトHESO（へそ）を実行し、新たな価値を創造します。

1



身体や物の「中心」を表すのが「HESO（臍・へそ）」であることからプロジェクト名をプロジェクトHESOとしました。学校を起点としたプロジェクトを通じて、子どもたちの中心（HESO）に新たな力が宿り、成長してほしいという願いが込められています。丸いへそをイメージさせる「O」の文字は、多くの○や△、□で構成され、社会の垣根をなくしてさまざまな人や物が集うプロジェクトの多様性を表現しています。

2

(果たすべき使命)

MISSION

HESOを創る

社会イノベーション創造プログラムの実施

プロジェクトHESOの中心となるのが、年齢に応じた「社会イノベーション創造プログラム」の実施です。5校園に通う3歳から18歳の子どもたちが自ら発見し、感じた実社会の課題に対し、さまざまなパートナー（地域人材・行政機関・一般企業・大学研究室など）の協力を得ながら、解決へのロードマップを子ども自身が模索します。推進室はパートナーの新規開拓や連携調整を行い、子どもたちが主体的に考えて動く「考動体験」を促します。プログラムの進捗状況や実施効果については公開予定のWebサイトにて随時発信予定です。

先端技術・教育データ活用プロジェクト

教員が情報端末において専用のシステムを活用することで、学びを「見える化」。そこで得られた気づきやデータを教育の場の現場にフィードバックします。

3

(プロジェクト内外に約束する価値・行動基準)

VALUE

社会に誇れるストーリーの創造

外部パートナー・教員とともに次の時代の金沢を生み出す人づくり、これまでにない教育モデルの確立を目指します。プロジェクトには、誰もが自由に参加でき、互いの刺激を成長につながります。社会、そして未来に誇れる新しい物語を、私たちと一緒に創り出してください。

4